

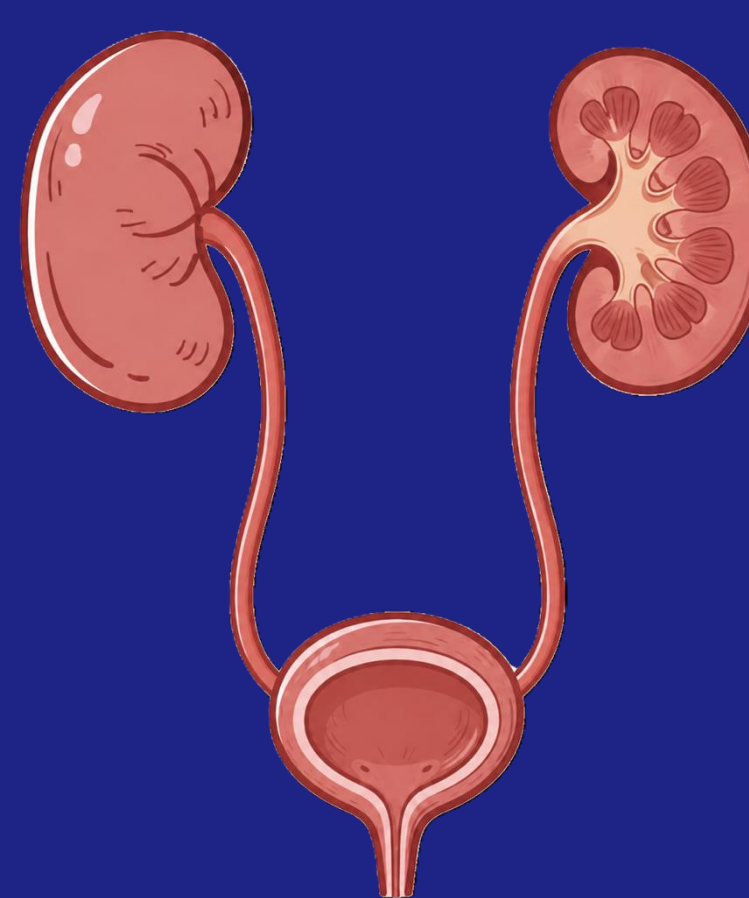
上皮バリア研究から、 ヒトと動物の泌尿器を守る未来へ

-17型コラーゲン分子が切り拓く新たな尿路病態解明-

酒々井 エイミー

北海道大学 大学院獣医学院

解剖学教室 博士課程1年



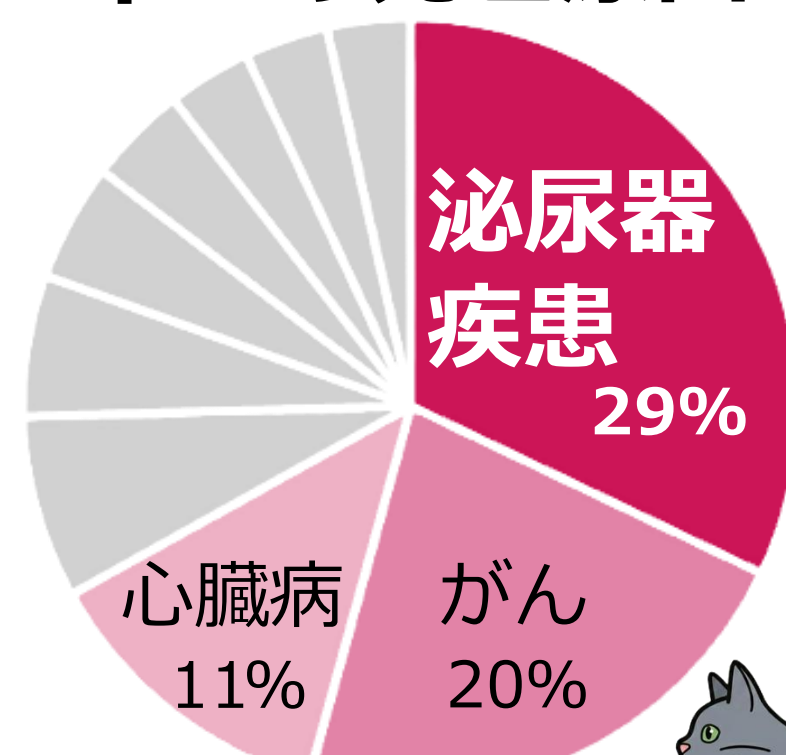
未来社会のあるべきかたち

- ◆ 尿路疾患における新たな診断・治療法の創出
- ◆ ヒトと動物の健康をつなぐOne Healthへ貢献
- ◆ 基礎と応用を含む複数の研究分野の融合

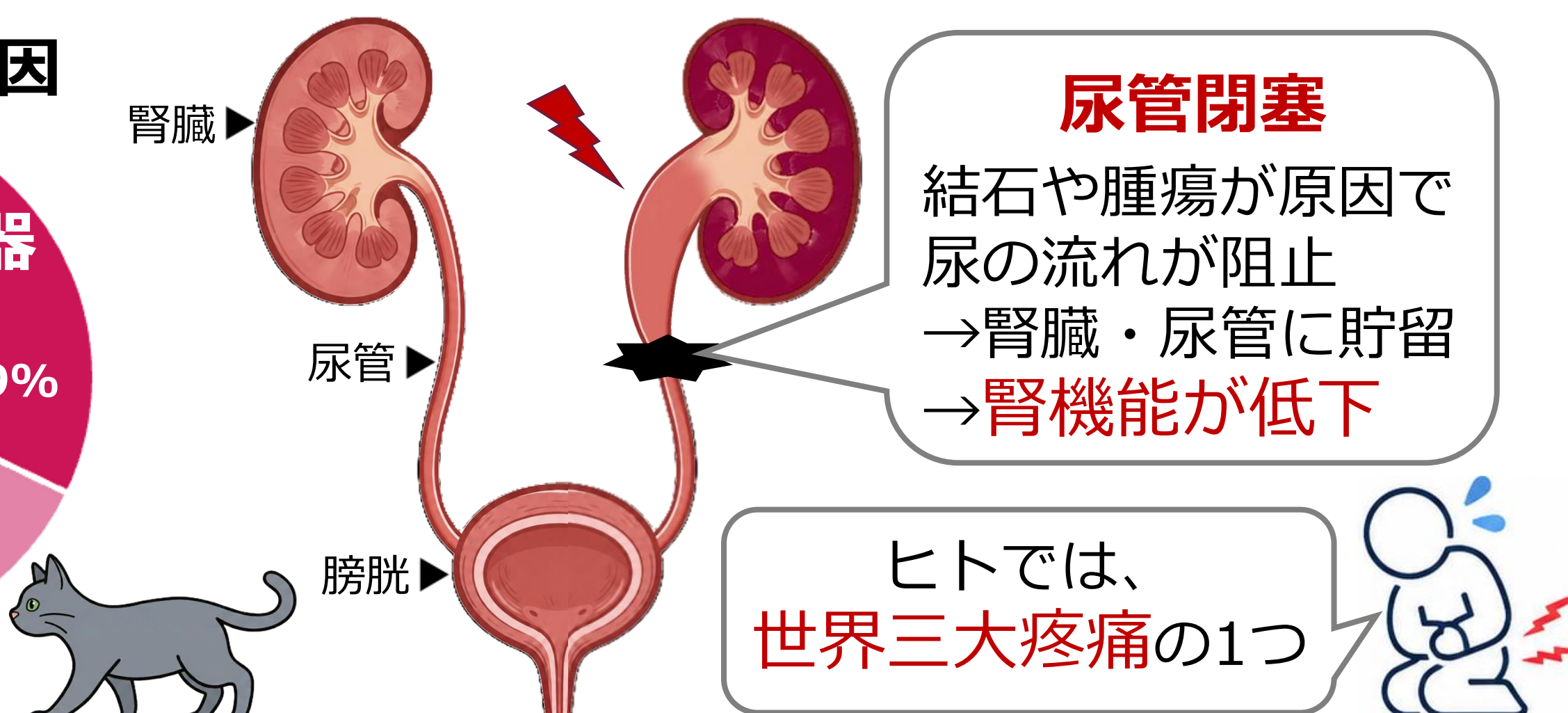
【ヒトと動物で共通の医療課題】

ヒトと動物の寿命が延び、加齢にともなう**泌尿器疾患**が増加
特に、ネコは**尿管閉塞**になりやすく、獣医療において大きな課題

ネコの死亡原因

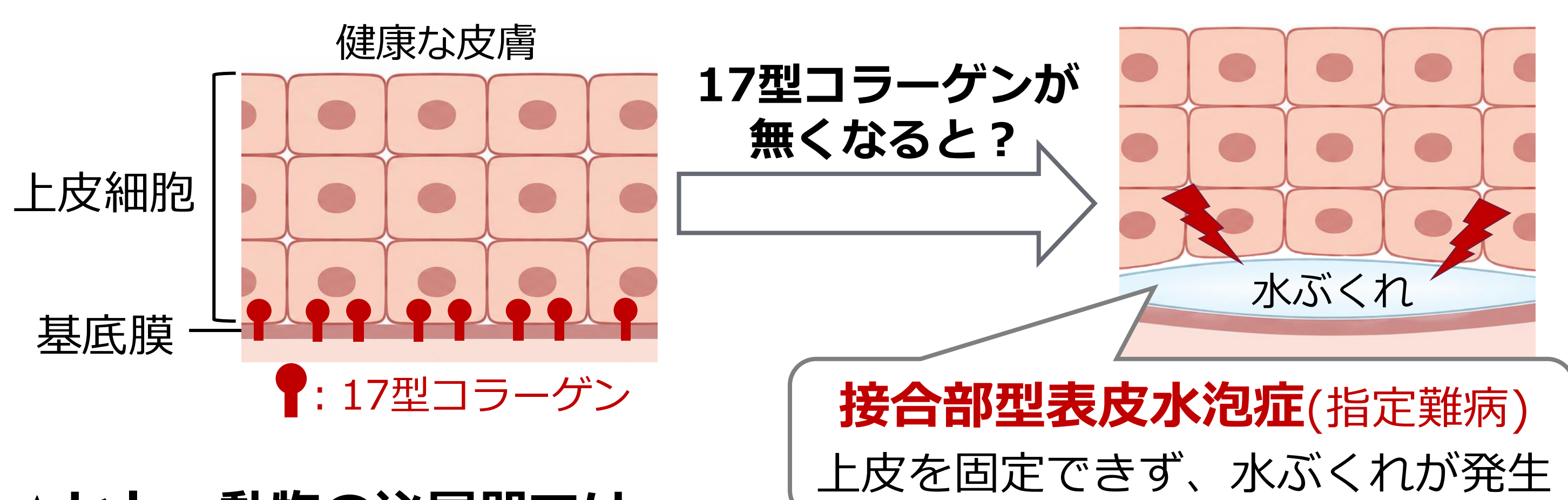


井上ら, 日獣会誌, 2022



【皮膚・泌尿器における17型コラーゲン】

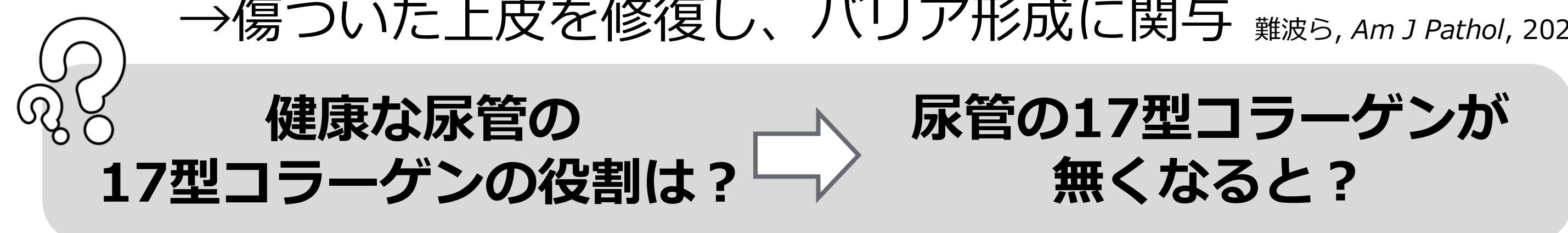
17型コラーゲン：皮膚の上皮細胞と基底膜をつなぎ留める分子



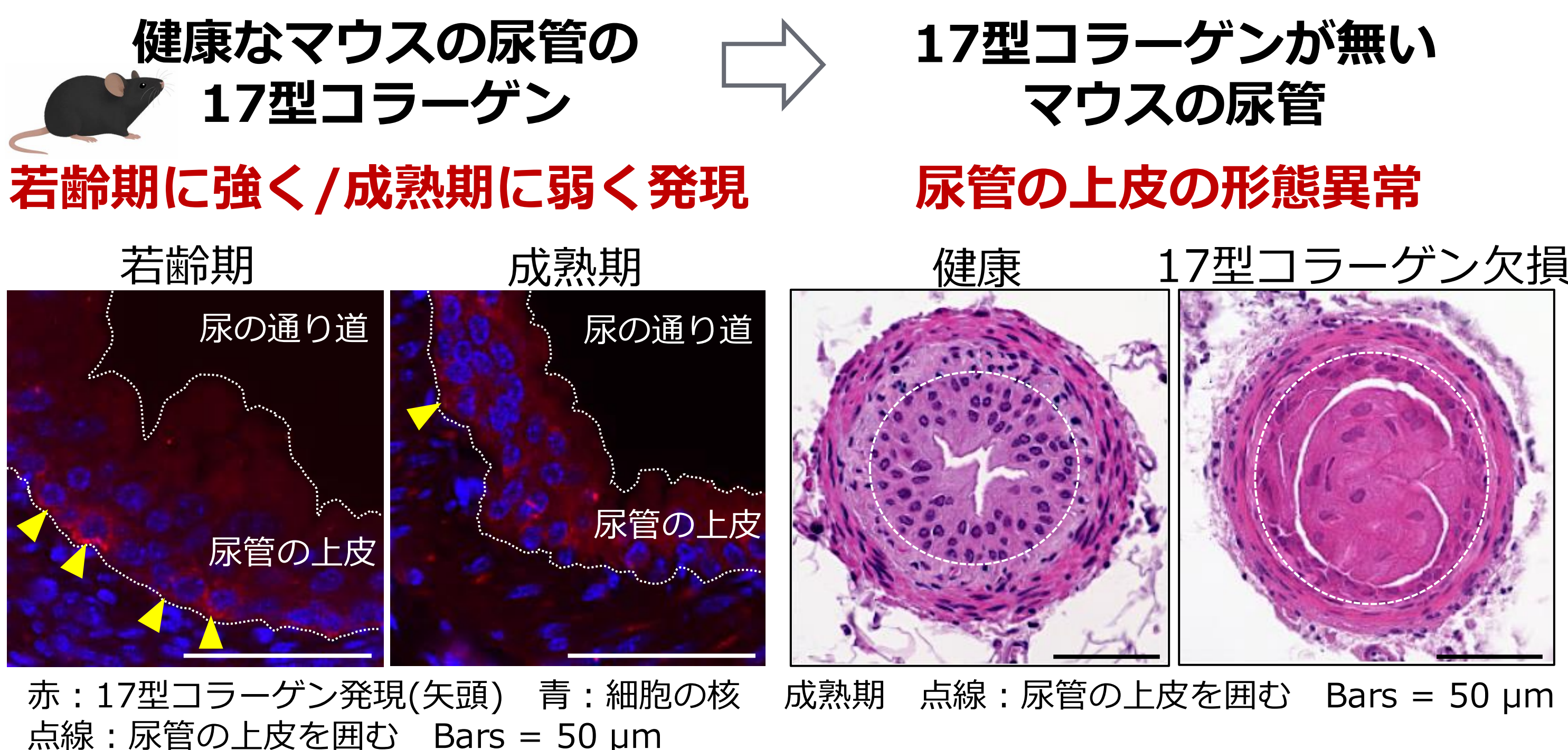
★ヒト・動物の泌尿器では・・・

尿管閉塞の尿管の上皮では**17型コラーゲン**が強く発現

→傷ついた上皮を修復し、バリア形成に関与 難波ら, Am J Pathol, 2024



【研究成果 酒々井ら, Sci Rep, 2026】



17型コラーゲンは尿管の上皮が正常に発達するために重要

★本成果から・・・

- ・接合部型表皮水泡症の患者における尿路評価の重要性
- ・17型コラーゲンを介した尿管の上皮形成メカニズム

ヒトと動物の泌尿器病態を解明し、新たな診断・治療法を確立